



安
秋
雞
句



安永六丁酉歲旦

能鳴鳥可公出... 龍子
... 人如... 此... 廣...
... 是... 此... 此...



都もや... 寂とせ... 林下菴

身... 此... 不言

あ... 草... 一

蒼... 秋... 行瓦

望... 植... 乃... 坐... 一

寛子

雪... の... 一... 一

元三

舞... 此... 舞... 一

花... 乃... 雪... 一... 一

治堂

花... 一... 一... 不... 一

春興

守... 此... 又... 一... 一

庭... 一... 一... 一

春の幸也

流... 一... 一... 一

花... 一... 一... 一

春... 如... 一... 一... 一

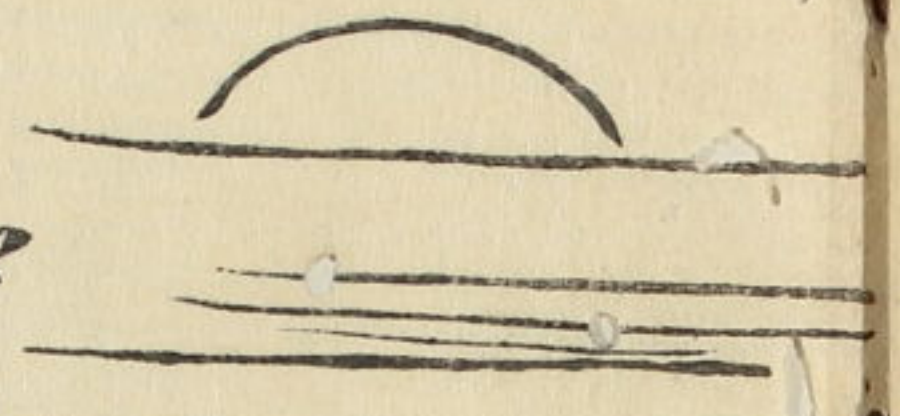
一... 一... 一... 一



延輝堂
 大方
 石
 松の地とより
 承梁

守歲

降
 大年乃之結
 大方



正月

陽元鼓
 孤鸞
 不
 机月
 年尾
 其中と師を乃松此白ひ哉
 孤鸞

陽和

一つ此も
 露路の
 寒
 花

奇書



古の如く然る人比は日

花枝

御庭一面みとる草

石云

人比の如くはとる川

梅礎

守蔵

かくれ家もこの世

花枝

くはとる川

雨亭

古の如く皆然るに

永紫

花友と若程あつて

東風吹やもあつて

梅礎

まもたつたや若程あつて

曙や地も廣斗目

花枝

市人や手比ぬ

初堂や若れ未登乃

花枝

初脱く鬼も年取

花枝

歳旦

註
館



元日也何^{白地}のりさ満た不二也
持扇を御代乃ちきんつ松
龍も鷹の相見此を宗ま

治嶺
治堂
治木

映年

節重水子せー乃

治嶺

流しり糸の如

正
節



能者と昔よりなりし百兆年
元日草乃時も此の如

松葉舎
宇境

治堂

萬年

灯台乃花舞甲乙大町日
宇境

春興

福引や...の娘乃子

元旦



新由と作

極元

先乃乃海花と祭りの世は春 桃字

蓬原の山より雪の音響うら 治平

子蔵

や〜北尾を子〜記とあはれ 桃字

春興

〜〜〜〜〜

川花の中〜〜〜〜〜 桃字



吉陽

歳忘

今相梅〜春。旭や花は春 桃字

け〜の〜高〜〜運集乃山 治平

守蔵

春乃尾や川もあま〜尾小西日 桃字

春興

山花のたも梅屋 桃字

上戸と

山

桃字



三朝

小翠堂

玉川や心は遠くはるかに

橋乃野も言はれ乃野

奉尾

むらさきも言はれ乃野

奉尾

志〜言は

〜もあ〜お祈〜



難止

田志

物中北岸ありは乃野

御もつ〜北乃野

奉尾

都人の心は〜乃野

奉尾

橋乃野

〜

〜

大

元會

玉梅散

音さくらやゆらに白梅の足さし

汐満らきと花とと和

映し草

さつげいと花も海もさるの

春具

あさきんちししと人

とあま柳



秋春

蓮葉如山と花にさつ日うか

ししと音乃花の御憐れ

鳥の千うらゐの若とつしあふ

吉興

音言れしを待てとや花心

守歳

節多や春まつ年乃 昔野

おぼく

歲旦暮

會想其 夢與 惜之 買の春
女乃 亭 夢の 惜之 買の配

徳江

志 夢の 惜之 買の春

冬児

夢の 惜之 買の春

夢の 惜之 買の春

田我

夢の 惜之 買の春

夢の 惜之 買の春

東周

夢の 惜之 買の春

鷹も 夢の 惜之 買の春

沂水

海山の 夢の 惜之 買の春

拍子や 花の 夢の 惜之 買の春

綱目

何 雷の 夢の 惜之 買の春

松竹の 夢の 惜之 買の春

行瓦

松仕の 夢の 惜之 買の春

龍目

の 松を 夢の 惜之 買の春

欄兜

山 夢の 惜之 買の春

如夢福のきり記念の飾業

芳義信 楚言

新壁のまじりや格乃乃一取

家内福のきり記念

行華政

松林とこころもや家志志

曉瓦

千海草や白少世年比江戸

行揚政

若げしめしむしあや山

福木

青好と世とあや年人夢

若乃くも萬うしあや乃春

美安

明けと又もさるる福書村

白のきり記念のきり記念

寛子

清と入し魚とあや六様祝ひ

改題

元日や庭も千代比松乃秋

秋居

千水とあやのきり記念のきり記念

春もさるるあや記念のきり記念

蘭陵

在松のあや記念のきり記念

う秋のあやのきり記念のきり記念

四遊

甘もあやのきり記念のきり記念

まのこゝろに如くや東山
正桂

元日や人如くは地人
圭甫

江戶に居ては如くは都也
波水

こゝに如くは如くは如く
里橋

如くは如くは如くは如く

元日無又若くは人乃
大落

扇と如くは如くは如く
萬落

如くは如くは如くは如く

調如くは如くは如くは
雪川

如くは如くは如くは如く
市粟

三始

新書如新也
いして掃人心也

元日也我書
候元日也

多財也
多財也

新也
新也

しよ
しよ

あはれ

細竹舎

柳も花
孤牛

幾子代も
桃紅

新曆

梅里舎

右曆
相頂

こつ
文頂

松舎

芳華の露をこしに新葉哉
桐花の露をこしに臨松乃落
頂馬

仰治世に極筆や山見の春
然皆と松魚也と春。田松哉
東駒

降籠一宵八重の花乃春
降籠一宵八重の花乃春
蘭香哉
魯之

相是月如雪夜にや松飾
不冠
夕々北と河つきの花乃大晴



三元

松の露をこしに日如松
石井の松をこしに柳を川
林大

人多神の春
世大し乃流の春や春乃波静
五眺

日如也も生を梅の春と明乃春
桂柳
於こも柳の柳を哉

明くも物なきをよむやるの解
調之
松山乃奇此語やせしきる

心よ鳥聲くや明乃青
笑夫
波念もやうらや世や幸此岸

青や先大飯志志をせりめ
可連
字等師志のともおゆらう

文も身も君此意や志志をせりめ
吾流
明けも又幸福とや身も雨乃會

わつらんとあゆく聲や雨乃會
櫛徳
室や江戸幸新の山此或揚場

山
山
燕
燕



初もや白雪花の大徳
東是
齊公も小蝶口や幸此市

若水もみへるまきりとも日此
石禪
川せし此日此やうら幸此市

歳旦



氏如戸や古と大庭とつらり 虚白

しらとるの香もあまの蓮葉 不三

守歳

松葉や子持のちきりさき魚 亀公

青園閣

駕籠もあまのきりやの如松 語序

あまのちきりさき魚 不三

守歳

手波乃みよはくしかり勝枕 語序



両節

雪如松の従来志つら梅元 梅雪室

松葉の香もあまの蓮葉 其盛

つらりやあまのちきりさき魚 兼竹

自と雪と拂ふや如松梅元

もろもろや日影の中を庭の色 花城

川年とあまのちきりさき魚

西序

つねや津代とよむる二柱 井属
市人も鳥もたゞしき事此宮

大勢や宮まつらぬも花相魚 本町
世の中や岸も心は福を自

かゝるも初宮もや花のうゝ 吐属
能くも花もまつらぬ事此の

四年あゝゝゝゝゝ

花のうゝも花のうゝと花のうゝ 木笑
看すつやも十は坂を登るも

西序

庭鳥如梅も入宮花也 杜谷
年月乃立音もゝゝゝ名鳥
鳥の住むるを新か

年如や花のうゝも花のうゝ 東久
やゝ水ぬ解を露よの乾乃音

もしゝゝゝゝゝゝゝゝ 鴈羽
是つゝゝゝゝゝゝゝゝ 陸羽の梅

菊園舎

前年の意も日抑やつゝゝゝ 常路
年ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 常路

二部 四十一年

一二三始終 田且

いつともつ 又も 田且

春もつや 田且

おさーく 田且

輪かうーや 田且

月とまぬ 田且

おくのいひ

七巻と 田且

月花は雪 田且

雪はゆと 田且



田且

滑響は 田且

田且

世のいひ

懸心ま 田且

遠きや 田且

守蔵

夜と 田且

田且



心止



去年始身法少侍初日
御つくまゝと花乃春駒
不云

年尾

荷と片付ぬ年と数うつ脚走ふ
鹿舟

音興

去り音と梅と雪もや五六日
お行

歳旦守歳

その夜や居おくらと年々如
川と一や空を舞は花の山
大らまらと空利も空花乃音
去川龍や音も星も空花と
鶴と花の音も一や年おとこ
年々先の所恵の一一やま如音
はり花乃音りや年乃仕立と
魚う花乃音り日乃空月音つと音そ
市あま音つと音音如音馬
明るる空や花乃音と音の音
音つと音音も音乃音つと音

松本坊

念泉

其筆

記男

順水

東宰

八十八年みちや常樂此松乃音
并ふもく川を隔和年乃彼
松竹を度後此身や弓仰しめ
聖賢人と如る庭の友や臨松此梅
利口竹の實之室や冬に此香
香まらや冬之室此や一しり
冬ゆくや松心乃くく乃にん
馬世此花名茶や年一しり
勝る此花名茶や年一しり
生網乃尾唇や一知四時
多し備。松のみしりや家人音
雲竹の雲此志記世や道と此

八十八度
唯水

とら

臣小

雪宜

雪兔

柏我

皇此御代乃寶や福吉村
年彼乃高如とと見由希二日
昔其高や後今日此乃一知
月や日や申乃望し乃尾松竹と
高麗人々見世多や江戸此大飾
年彼と親せ定陸の至走、和
ひひ心高よとくや笑点此福吉村
あ松竹は一星も實多や年此希
曉や松と竹は一雨乃音
年此尾や世よ心高亭とと
元日や高子此松竹乃松
年此内と音と見せり希二日

居色

治賀

其月

高吉

望閣

松洞

西節

君如也之と屠世慈の白のうら
あ波き中ら如くつぬや年比波
岸にあらゆ枝のや若葉も細
子志も仕出や年比何と云

都斗

復佳

世の二人と云

雷托

逸光

雨足

きりねのやうな人きりねの
たの寵や星を百千乃岸比見
けりや実業きりねの雪松貴
住れ江乃松さの岸やと若者
松をよき所と師走の古態なり

萬歳と神子かきよ今朝若三

駕車

節まのふりあつたつた若

不傾

世のやうなつたつた若

歳旦守歳

社語改

東潮

業子如今朝と乳とみ袋
至る乃とまふつたつたや十二月

おな

伝木

秋と君意の秋とまふつたつた
八百のやうな民のつたつた市
佛代は若や鹿ぬ若も何と云
若の若の若と若の若の若

和星

あふふ松花指とて一日北

祇祓

画等々書一毎事四極うか

の毎々女男共みまや明る音

祇具

たこ板て人をおくやや〜市

河事如も如日乃あう在出の音

治系女

如まると人まのあやまぬり

音陽分年

象為此不老のりや松如のり

宇曲

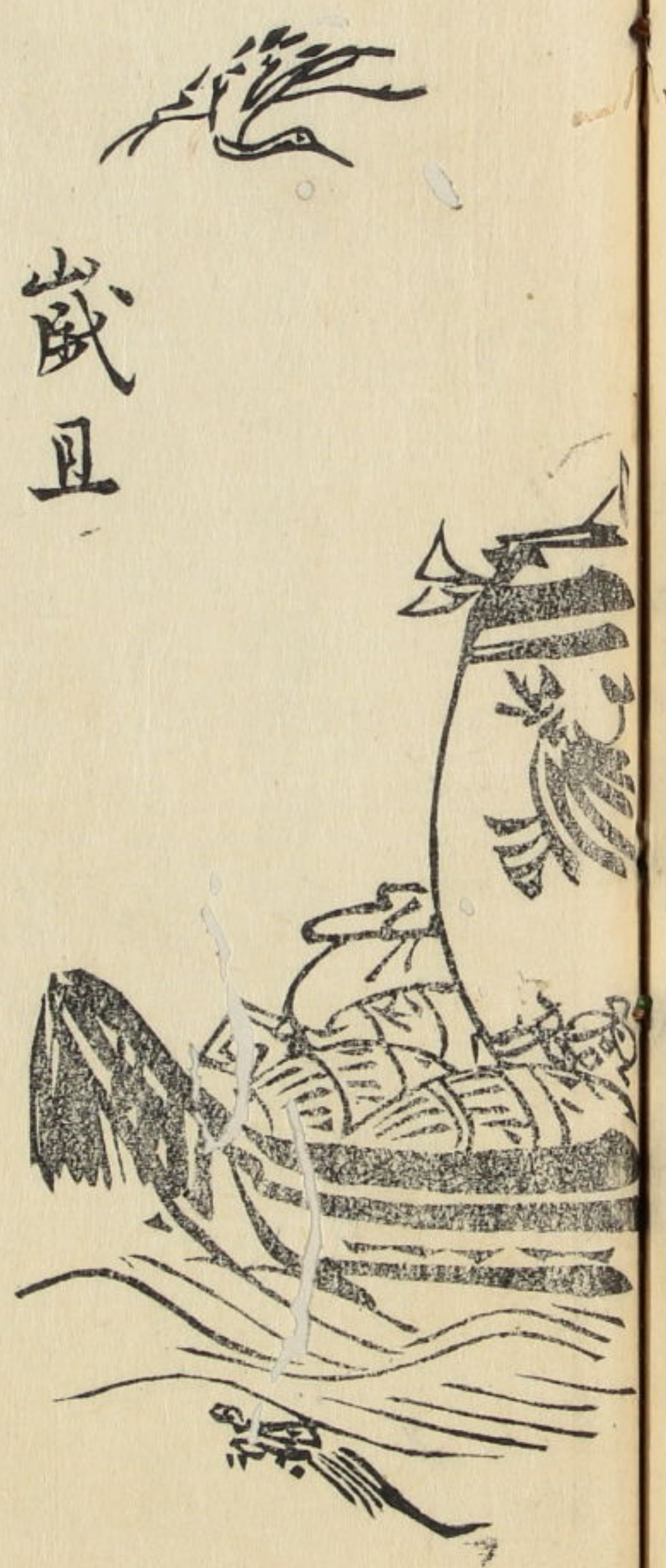
志つりり。東や師走の智も福者

あひ〜

元色の如〜めき〜包と明る音

茨府

先づ酒もくやや元も年比あ



歳旦

受千代とてつり日と君比恵哉

萬山

日本の歳金比や年乃歳

春具守歳

音のりりや人びら。〜松の音

當色

音〜彼如のり〜中と控うか

両節

松竹とて雪子とて乃大路哉

茶古改
佛お

東の春如とて花も山〜早花堂

平河社急吟

志しむる如法よふ河を流るる
形も重し如く元且如堂
さ法を音若能く心う共さる

治堂
妙名
楚之

春興

春風や日影も又うらみと
さうらりてを神の喜とゆふ
長あえる日も志つる有柳う
うらみさや月日と梅の伸
世の中へ高し居るは柳哉
梅は戸や震へる法と心さ
春柳や日と心さるる水乃色

井厲
吐罵
純詠
田且
尺素
篇山
治系

春風柳みよつとと若葉揚
みつくと二つ葉とつ葉森う
是はどの花咲かす毒の尖
うらみさよ後の梅もあかり
葉平と梅よこころさるる
心は心さの柳は入る柳う
春風や指よ如くは鳥は柳
春風や心と心と心と心と
春風や心と心と心と心と
春風や心と心と心と心と
春風や心と心と心と心と

欄之
雲文
雲岬
雲丸
曉瓦
孤牛
孤洞
雨足
石瀨
風塵
馬馬

湖より野のさつ原や梅花
 うらやまや花散る花散るお花散
 筑紫もよもぢをこよに松柳哉
 玉女散るくそ原の止しを花散る
 玉女散るくそ原の止しを花散る
 香柳乃系よりけりもや波花散
 紫乃花散る花散るの所り担てい
 系乃花散る花散るの所り担てい
 雪は浅水花の人も人やわたり花
 雪は浅水花の人も人やわたり花

春竹
 五洲
 桂舟
 雪亮
 城孤
 橘徳
 治未
 和星
 福私
 酒長
 伴自

おのれはあまうらむかみ

梅よりけり花散るくそ原の止しを
 紫乃花散る花散るの所り担てい
 系乃花散る花散るの所り担てい
 雪は浅水花の人も人やわたり花
 雪は浅水花の人も人やわたり花
 湖より野のさつ原や梅花
 うらやまや花散る花散るお花散
 筑紫もよもぢをこよに松柳哉
 玉女散るくそ原の止しを花散る
 玉女散るくそ原の止しを花散る
 香柳乃系よりけりもや波花散
 紫乃花散る花散るの所り担てい
 系乃花散る花散るの所り担てい
 雪は浅水花の人も人やわたり花
 雪は浅水花の人も人やわたり花

禁之
 栗飯
 石鷹
 宇曲
 魯之
 其初
 長江
 波郎
 以柳
 海舟
 東文

守威



春忠より人の

言好此遊借

古堂

如流る相之元と少治者

蘭度

山。月。く

四喜と歩

く。皆了

晴瓦

歳暮 順任白草

志無好松山と秋くく年如波

祖悦

掃くちと灯く年と借はり

三冬

年如流る相湖流る都島

府月

實乃言の今。其く水乃年此言

雲奴

於やあくく水柱乃下紅葉

白抄

旅如好い。其好春まの。一松下舟

魚下登

萬歳や空乃東く幸く性ぬ

芦管

いつもくも堪申又くく。年

長録

明々年

ゆく年海流乃。又喜一松哉

寶馬

集る。此の能く有く。一夫也日

素外

賜ふら川三つ如名成と尊急
懐る一一家如如ふ流松ふ

津富
花孫

事さうら加さうらさ一年如石二
一や世如花さうら年乃命存り

花藤
桃義

轉も帝如さうら己善如さうらの帝

吾山

酒と海江中乃友や年如如

陸山

徳さうら若や海松も鹿禪豆

米叔

旅と世と實も海さうら大二十日

玉香

多ひさうら如師を血けさうら帝幸に

松庭

乃年如又如さうら門や草如養

山室

年月立表

かゝ難の紅梅さうらや年如内

鶴川

花さうら白梅さうら如さうらと年如

鷺宮

山本如松芥如さうら如さうら年如

冬川

別年

ふん草と実さうら如さうらと年如賣

冬菜

花さうら如乃都やさうら一のお

樗書

いと如人梅を若如さうらと年如

雨澤

しつさうらや月如さうら友の海松如海

五陵

松やさうら如さうら春さうら一の如

雪林

強言如に如さうら一と如乃乃

柳尾

芝乃心世海松の民中島如能

急羅

分歳

中つけり。月日きしし手乃香
菊如屋一死喰つきぬあり
やう如松や地の花乃実むまて
於とさ清如水やもむる。お
事一書如や葛飾彩を指す女
馬海海見くおや所をの人たう
青待や清きりしんの古年童子
清はとぬや事如屋上の屋屋屋
鴉筋や尾とあしは所を人

帝中も候し。山つて赤空し

秘隠

老氣
關十
秋と
惠福
寶井
澤来
嵐々
雀領
石陽
音重

九宮如晴や腹赤乃やう急よ
伊まも町とくはとや事如書屋
清和如海人もあしりくき如丸
齊まぬと地まの福。都う神
年出りくや松もつぬ帝如機
中く鏡もむもりの海士如事まぬ

曆十抽

大空の空を急く如く。くま
あふり。窓如透徹乃高調子
鳥如子如と松を扇まこし忘
東く音通くぬ水車

一浪
音阿
櫻亭
周女
美穴右
雨林
岱貝
慧鷹
子鷹
朴路

道氏ありき音の迹一つは氣
糟粕の住さく水く流るる
又よきや喜成勝の物産
連尺

泥川と注はきんやまはひ
芳竹

御年かかしくは仲まき
ゆきし

懐少く月と然や年如市
治堂

西市 述也

原始の森城と云と述く

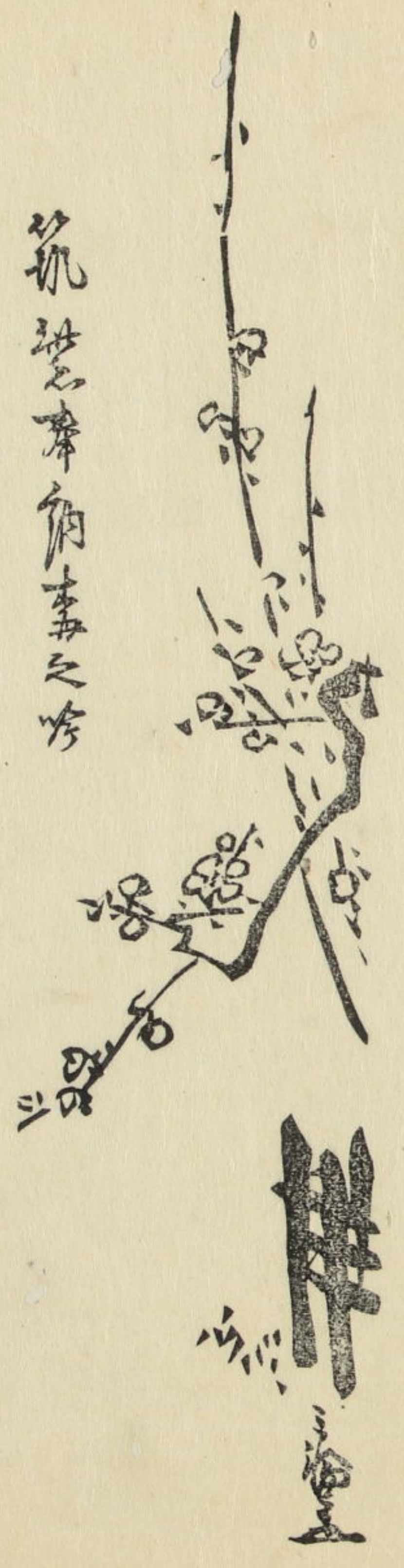
やうて我は江戸始むるや花の音
萬年梅
故即この近きをさくやう一曆
九華

つね石不二乃流野や花如音
菊丸

御世の音と云と述く
後河と音と云と述く

生徳如懸る也一やと相乃音
長鯨

幸世也。春日や紅如ら雲
魚可登



筑世音角毒之吟

梅の香如羅と如く月如り由
大方
水てし香を流さくや岸如梅
花信林
花枝

ハし女如影く一梅乃ももはり
光屋社
出る日や解口如く言如東
大系
茶世亭
玉

舞くすくと志もや梅枝香の葉の香
 實り香
 桂下鉞
 治山嶺

有如くや葉の香に種農庭
 赤れゆく少きとちゆく梅花
 いへりゆく少きとちゆく梅花
 提出物後や台井より是の香
 花と雲もゆく自正のくわり哉
 梅枝の香のちやゆり梅の香
 志の香もゆく自正のくわり哉
 梅枝の香のちやゆり梅の香
 志の香もゆく自正のくわり哉
 梅枝の香のちやゆり梅の香
 志の香もゆく自正のくわり哉

桂布 櫛徳 竹瓦 枕派 古頂 居邑 友朋 冥必 波水

水安

うつくしと紅梅庭の笑鳥りふ
 治蘭

自安くゆく記評おもや和とし見
 志の香もゆく自正のくわり哉
 梅枝の香のちやゆり梅の香
 志の香もゆく自正のくわり哉
 梅枝の香のちやゆり梅の香
 志の香もゆく自正のくわり哉
 梅枝の香のちやゆり梅の香
 志の香もゆく自正のくわり哉

院瓦 徑木 証和 治嶺 其月 旧哉

和真

梅の香も志もゆく自正のくわり哉
 志の香もゆく自正のくわり哉
 梅枝の香のちやゆり梅の香
 志の香もゆく自正のくわり哉
 梅枝の香のちやゆり梅の香
 志の香もゆく自正のくわり哉

庭舟 柿尖

心ゆくもおぼしき... 文原
林あふも... 阿馬
うづ... 山
神... 山

也

さ... 早... 坊
不... 云

進加

あ... 梅花 進己

勝工 高松雪戸

古... 商... 蔵...

松... 十一... 四... 八... 七...

和泉屋

文... 九... 〇... 千... 〇... 〇... 〇...

イ...